

令和6年度 相談支援対応状況について

1 自殺未遂者支援の状況

(1) 把握経路

ア 湖南いのちのサポート相談事業(保健所事業)

自殺未遂により、県内の救急告示病院を受診した本人または家族に対して、病院から事業の説明を行い、同意が取れた方について保健所を通じて市(自殺対策担当課)に連絡が入る。保健所と連携の上、電話・訪問・面接等の方法で、自殺未遂をした本人やその家族に対して相談支援を行い、支援に必要な関係機関と連携を図りながら再企図を防止する。年に2回保健所とリスクアセスメント会議を実施し、支援の方向性について協議・共有している。

イ その他関係機関からの連絡

庁内関係機関が把握した自殺未遂者について、関係機関から支援についての相談が入り、連携しながら支援を行う。

(2) 自殺未遂者の新規把握人数(実)

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		計
	湖南いのち	その他	湖南いのち	その他	湖南いのち	その他	
男性	5	0	5	1	4	0	15
女性	9	2	14	0	11	0	36
計	14	2	19	1	15	0	51

《自殺未遂者の特徴》

【性別・年代】自殺未遂者は、いずれも女性は男性の約2倍である。年代別では女性では10～30歳代が多い。男性は40歳代から50歳代で多くなっている。(グラフ1)

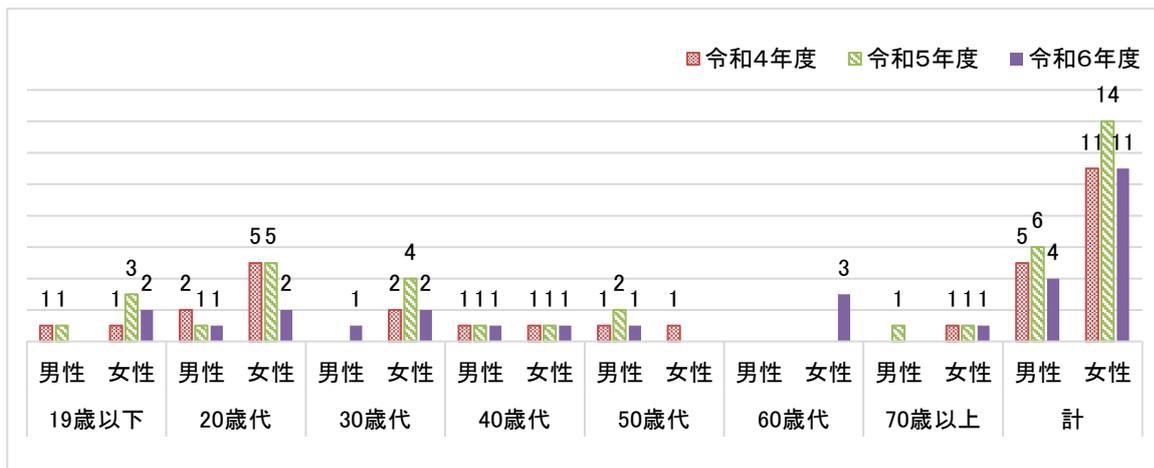
【原因】過去3年間において、「家庭問題」が最も多く、次いで「健康問題(精神)」、「交際問題」の順で多くなっている。(グラフ2)

【職業】過去3年間において、「被雇用者・勤め人」が最も多く、次いで「学生・生徒」と「年金雇用保険等生活者」が同程度となっている。(グラフ3)

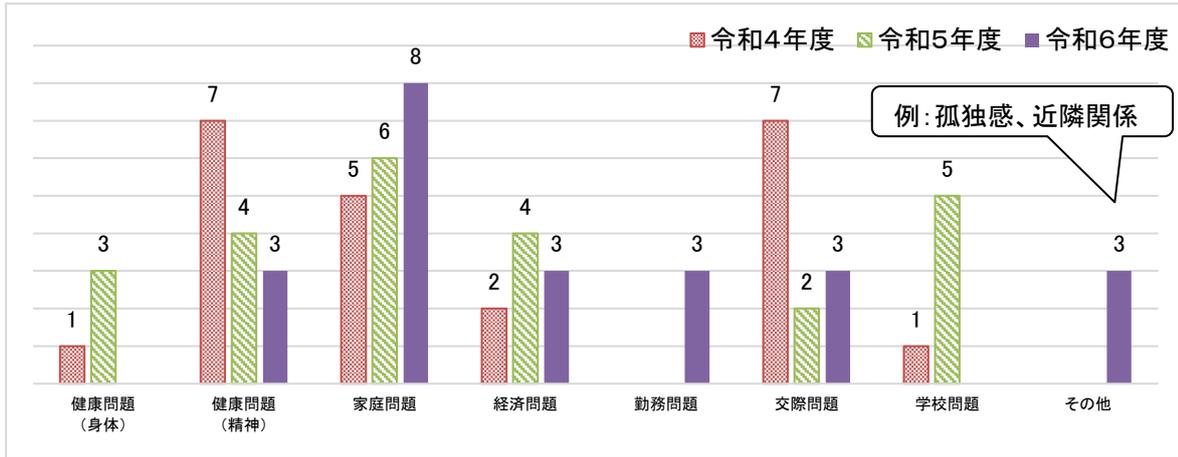
【手段】薬物(市販薬、処方薬含む)が全体の半数以上を占めている。特に処方薬による過剰服薬者が多い。(グラフ4)

【未遂歴】過去3年間分を見ると、いずれも「未遂歴有」が「未遂歴無」を上回っている。(グラフ5)

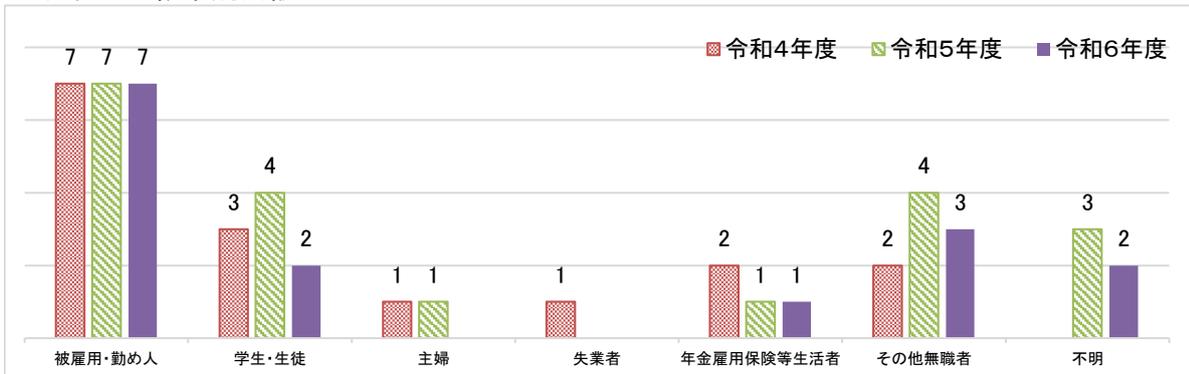
▼グラフ1: 年代別自殺未遂者数



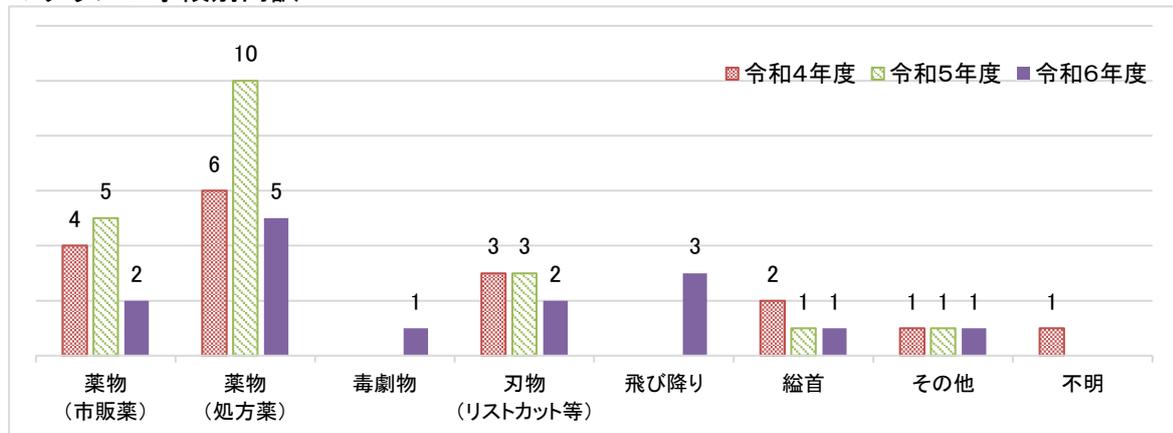
▼グラフ2:原因・背景別内訳(重複あり、不詳を除く。)



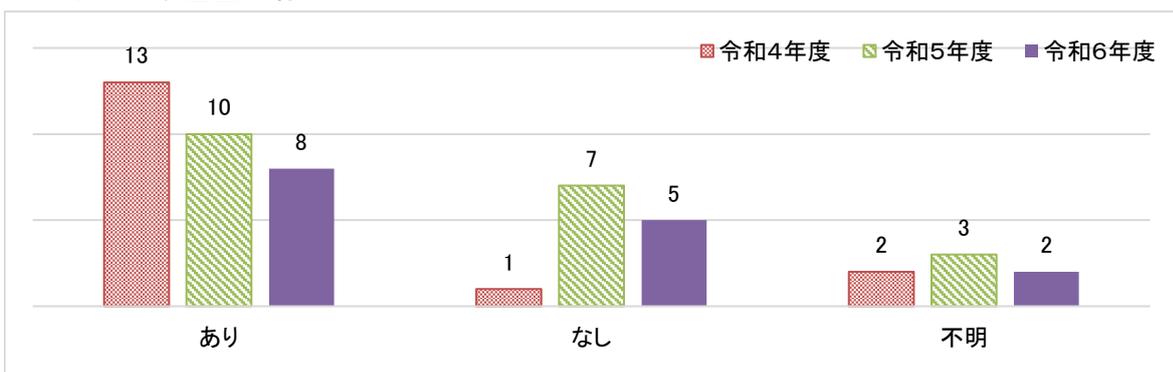
▼グラフ3:職業別内訳



▼グラフ4:手段別内訳



▼グラフ5:未遂歴の有無



2 精神保健相談対応の実績

小学校区ごとに担当保健師を配置し、面談、訪問、電話連絡にて対応している。
 ケースによっては、他課の担当職員との連携や、ケース会議にて情報共有を行っている。

▼表1:相談対応（実）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実人数	119	96	86

▼表2:相談対応（延）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
面談	122	141	191
訪問	70	60	61
電話	303	391	678
ケース会議	36	40	49
合計	531	632	979

相談対応の実人数については、令和4年度から令和6年度にかけて減少している。
 相談対応の延人数については、令和6年度は令和5年度より347件増加しているが、これは特定の方からの電話相談が頻回に行われたことが影響している。

▼グラフ1:令和6年度相談対応の内訳(延人数)

